

層の比較としての性格は異なる。

両地域は県内でも層堆積が良好であるため、この両地域の比較は県内の地域的な基本土層の比較を行うのに最適であると考えている。

① 薩摩層位

薩摩層位はVI a層が薩摩火山灰（P14）に比定される。VI層の下位には弱粘質土（VIb層）が若干堆積し、縄文時代草創期の遺物はここを中心に出土する。VI b層の下位にはVII層（いわゆるチョコ層）が堆積し、粘質の非常に強い土壌となっている。VII層は色調により3つに細分される。VII a層は黒褐色で、VII b層は茶褐色、VII c層は暗茶褐色である。VII層の下位にはVIII層が堆積し、AT火山灰を含む二次風化土層⁵⁾である。色調により分層でき、上位がVIII a層で黄褐色砂質土、下位が暗褐色硬質粘土層（桑波田・宮田 1997）となる。その下位のIX層は入戸火砕流である。

② 大隅層位

大隅層位はIX層が薩摩火山灰に比定される。X層は黒褐色土である。XI層は黄褐色土である。XII層は軽石混じりの暗茶褐色土である。XIII層は暗褐色土である。XIV層はP15を含む層位である。XV層は暗褐色土である。XVI層はP17を含む層位である。XVII層はAT火山灰を含む二次風化土層である。XVIII層は入戸火砕流である。

ここで、テフラを基準として両地域の層位の比較を行うと、薩摩火山灰該当層として薩摩層位のVI a層が大隅層位のIX層に、入戸火砕流該当層として薩摩層位のIX層が大隅層位のXVIII層に比定されることは確実なようである。層位数からも推されるように、大隅層位の方が薩摩層位よりも堆積が良好である。

(2) 出土石器群からの比較

前節では両地域の比較をテフラから行ったが、本節ではさらに主に示準石器から比較を行う。作業としては両地域から共通して出土している同じような石器群についてそれぞれの出土層位を比較し、両地域の層位をさらに細かく比定していく。

① 剥片尖頭器を含む石器群

剥片尖頭器を共通に含む石器群として薩摩層位地域では仁田尾遺跡VIII b層、宮ヶ迫遺跡VIII層があげられ、大隅層位地域では耳取・桐木遺跡XVII層があげられる。

薩摩層位地域の仁田尾遺跡はVIII b層（暗褐色硬質土）からの出土で同じ台地の宮ヶ迫遺跡と比較しても出土層位が下位である。また、仁田尾遺跡の石器群はナイフ形石器、台形石器の比率に比べて剥片尖頭器の出土比率が低いという大きな違いがある。

同じく宮ヶ迫遺跡では今峠型ナイフ、粘板岩製の両面加工尖頭器、剥片尖頭器に用いられている縦長剥片を利用したスクレイパー（石清水型削器）、台形石器、三稜尖頭器が組成されている。

大隅層位地域の耳取・桐木遺跡では、台形石器、ナイフ形

石器が組成されている。

両地域の比較から、剥片尖頭器を含む石器群は薩摩層位ではVIII a～VIII b層に、大隅層位ではXVII層に比定され、それぞれの層位が両地域のほぼ同時期の関係にありそうである。

② 小型の台形石器、ナイフ形石器⁶⁾を含む石器群

これまでは露重遺跡や床並B遺跡で代表してきた石器群である。耳取遺跡・桐木遺跡XIII層、西ノ原B遺跡VII層、帖地遺跡XII層などがあげられる。また、正式な報告書は未刊行であるが、前山遺跡VII b～VII a層も速報として事例が報告されている（鶴田・桑波田 1997）。

薩摩層位の西ノ原B遺跡ではVII層からの出土であり、前山遺跡はVII a～VII b層からの出土である。いずれも細石器とほぼ同じ層から出土している。帖地遺跡は厳密にはここでいう薩摩層位にはあてはまらないが、薩摩火山灰層下位の細石器を出土する地層から本石器群が出土している。

大隅層位の耳取遺跡、桐木遺跡ではXIII層からの出土である。なお、細石器はXII層～XI層にかけて出土しており、明確に本石器群とは分離されている。

両地域の比較から、小型の台形石器、ナイフ形石器を含む石器群は薩摩層位ではVII a～VII b層、大隅層位ではXIII層に比定され、それぞれの層位がほぼ同時期の関係にありそうである。

(3) 小結

以上、テフラと石器群の2つの観点から薩摩層位と大隅層位の関係を比較してみたが、現段階で両地域の相互関係を確実に対比できるのは、第12図のとおりである。なお、参考までに、中央に筆者の編年区分を入れておく。

薩摩層位	編年	大隅層位
VIa 薩摩火山灰層	VI期	IX 薩摩火山灰層
VI b 縄文草創期包含層		X 縄文草創期包含層
VIIa (チョコ層) 細石器包含層		X I 細石器包含層
VII b (チョコ層) 上位に小型ナイフ	IV期	X II 細石器包含層
VII c (チョコ層)		X III 小型ナイフ
VIII a 剥片尖頭器	V期	X IV P15火山灰層
VIII b 剥片尖頭器		X V
IX 入戸火砕流	II III期	X VI P17火山灰層
		X VII 剥片尖頭器
		X VIII 入戸火砕流

第12図 薩摩層位と大隅層位の対比